
聖女様と呼ばないで（仮）

トキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖女様と呼ばないで（仮）

【Nコード】

N0127Z

【作者名】

トキ

【あらすじ】

男性が死ぬほど苦手であるということを一番の理由に修道女の道を選んだ少女、コレット。彼女の歌う聖歌は、近隣の村の老人達から「癒される」と大評判だった。それを聞き付けた国王が、国の観光収入のために彼女を聖女として祀ると決めたものだから大変、連れて行かれた神殿で待っていたのは、聖女を守る騎士三人（全員男性）で　！？

登場人物紹介

【 聖女様と呼ばないで（仮） 】 登場人物紹介

【 登場人物紹介 】

> i 3 6 1 3 9 — 9 2 5 <

コレット

15歳。

男性が死ぬほど苦手なことを一番の理由に、修道女として生きる道を選んだが、

あることをきっかけに、聖女に選ばれてしまう。

裁縫や料理は若干苦手で、畑仕事や大作業をしているほうが得意。

> i 3 6 1 4 0 — 9 2 5 <

セドリック

25歳。

ライナグル国の王子。

他人に対して冷たい態度を取る時もあるが、反面、部下には甘い部分もある。

> i 3 6 1 4 1 — 9 2 5 <

ジェイラス

17歳。

通称ジェイ。

口調も性格もラフで、人懐こい。

セドリックに仕えているが、その口調のせいでよくキアランに怒られている。

> i 3 6 1 4 2 — 9 2 5 <

キアラン

25歳。

落ち着きがあり、普段は穏やかだが、少々頭が固く礼儀作法などにはうるさい。

セドリックには幼少の頃より仕えている。

『イラスト提供 nicolaさん』

ブログ（前書き）

初めまして、もしくはこんにちは！

拙作に目を留めて下さり、ありがとうございます。

不定期更新になる予定ですが、のんびりお付き合い頂けたら嬉しいです。

プロローグ

たぶん今私が置かれている状況のことを、『窮地』とか『危機』とか言うのだと思う。

広く豪華な部屋の中央に置かれた、これまで目にしたことさえないような天蓋付きのベッドの端に恐る恐る腰かけた私は、緊張に身を固くしていた。

別に、命を取られるとか、そう言った類の話ではない。

ではないけれど、私にとって『それ』は、何よりも恐ろしいもので……。

「おい、コレット嬢。聞いてるのか!？」

「は、はいいい!？」

刹那、頭上から降ってきた若干苛立ちが含まれたような声音に、びくりと身体全体を跳ね上げる。

その瞬間、声の主としつかり目が合ってしまい、慌てて顔ごと逸らした。

肩まで伸ばした淡い金色の髪に、深い碧色の目。均衡の取れた身体に、聖書の中に出てくる聖人のように整った顔立ちの男性。

そう、『彼』が、今私が抱えている最大の問題だった。

なぜなら。

「聞いていたなら、今俺が話したことを言ってみろ」

身を乗り出し、私の両太腿の脇に手を付いて、彼、セドリックは威圧的に問う。

正面を向けばきつとお互いの鼻の先がぶつかりそうなほど近くま

で彼の顔が迫っているのを感じ、私はこれ以上ないほどに身を硬直させ、不自然に首を捻った姿勢のまま早口に答えた。

「自分が修道女であったことは今日限りで忘れる。ここで俺の指導の下、聖女として相応しい気品と所作、その他諸々を身に付けていってもらおう。いいな？

おい、コレット嬢、聞いているのか！？」

「……………」

顔を背けていても、彼が目を眇めたのを空気で感じた。どこか間違っていたのかと焦り始めた頃、やっとで彼は私から身を離れた。彼の重みを失ったベッドが軽く弾み、ふわりと身体が浮くような感覚がして、一瞬息を止める。

「最後のは必要ないが……聞いていたならいい」

セドリックは呆れたような口調で言うと、一つ、大きな溜息を洩らす。

私はと言えば、頑なに彼とは全く別の方向に顔を向けたままだ。

「さつきからずっと気になっているんだが、お前、なぜ目を合わせない？ 俺と話すのがそんなに嫌か」

「そ、そうじゃな　っ！」

そこまでしか私の言葉は続かなかった。

セドリックの指が私の顎を強く掴み、おそらく醜いほどまで引き攣っていると思われる顔を、彼の方へと強制的に向けたからだ。

「人と話す時は、相手の顔を見る。田舎娘だとは聞いていたが、その上礼儀知らずだとはな」

緊張が最高潮に達し、私の心臓は、今にも破裂してしまいそうだった。

気付いた時には私の腕は電光石火で彼を突き飛ばし、足は窓辺へと一目散に逃げていた。

身に着けた修道服のスカートを握り締めて、限界に達した緊張のあまり身を小さく震わせる。

がくがく震える膝に何とか力を籠め、呆氣にとられたように固まっているセドリックに、叫ぶようにして告げた。

それは、私が『修道女』という道を選んだ最大の理由だった。

「ごめつ、ごめんなさい、私、私は、男の人がダメなの、苦手なんです！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0127z/>

聖女様と呼ばないで （仮）

2011年11月30日20時46分発行